

漢法苞徳塾資料	No. 096
区分	病因（入門講座）
タイトル	五邪の性質について
著者	八木素萌
作成日	1996.02.20

◇五邪について

「六因・七情」と言われるが、外感の病因は「六因」、内傷の病因は「七情」とされている。これらは「五行」論的に解釈されて五行に配分されている。

「外因」は「風・暑・熱・湿・燥・寒」と『内経』に記述されている。『難経』では「風・熱・暑・湿・労倦・食・傷寒」として「外因」を把らえている。

普通『五邪』と言う場合には、「六因」を「五行」に配当したものを指していることが多い。他の場合には「病臓腑」と「六因」の何れかの関係を、「五行論」的に表現したものを言っている。

外因と五行については、『内経』では「風＝木・暑＝火・熱＝火・湿＝土・燥＝金・寒＝水」として配当しており、『難経』では「風＝木・熱＝火・暑＝火・労倦＝土・食＝土・傷寒＝金・湿＝水」のように認識している。

「病臓腑」と「病因の五行」との関係性に関しては『難経』五十難が明快である。「外邪」と「病」の関係を「正邪・実邪・虚邪・微邪・賊邪」と表現している。

『五十難』は「心病」を例にとって次のように説明している。

「…仮令心病・中風得之為虚邪・傷暑得之為正邪・飲食労倦得之為実邪・傷寒得之為微邪・中湿得之為賊邪」

(…タトエバ心病、中風ニコレヲ得タルモノハ虚邪トナス・傷暑ニコレヲ得タルモノハ正邪トナス・飲食労倦ニコレヲ得タルモノハ実邪トナス・傷寒ニコレヲ得タルモノハ微邪トナス・中湿ニコレヲ得タルモノハ賊邪トナス。)

これらを次のように表示できる。

五邪表

五邪 関係性	虚邪 母邪	正邪 自邪	実邪 子邪	微邪 侮邪	賊邪 被剋邪
肝	母に邪にさる 水邪=氷冷	五行的に同じ 木邪=風	子に背かれる 風邪・中風 火邪=暑・熱	侮られている 土邪=湿労食	剋されている 金邪=涼燥
心	木邪=風	風邪・中風 火邪=暑・熱	土邪=湿労食	金邪=涼燥	水邪=氷冷
脾	風邪・中風 火邪=暑・熱	土邪=湿労食	金邪=涼燥	水邪=氷冷	木邪=風
肺	土邪=湿労食	金邪=涼燥	水邪=氷冷	木邪=風	風邪・中風 火邪=暑・熱
腎	金邪=涼燥	水邪=氷冷	木邪=風	風邪・中風 火邪=暑・熱	土邪=湿労食

難経	風=木	暑・熱=火	飲食・労倦=土	傷寒=金	湿=水
内経	風=木	暑・熱=火	湿=土	燥=金	寒=水

☆註……『内経』と『難経』の土邪・金邪・水邪に関する記述の文字面は明らかに異なっているが、記述されている内容を検討すると、煎じ詰めれば結局同じことを述べているのは明瞭となる。

【金邪】では天・空・上部から体に負担を掛ける邪としての「乾燥した涼しすぎる状態が肺を冒しやすい」ものであるから、表では「涼燥」を用いることにする。

【水邪】とは「足下から冷えのぼせるようにシンシンとした寒さ＝スケート場やアイスバーンで長時間居て冷え込んでしまった様子の寒さ」のことに他ならないから「氷冷」を用いたい。

【土邪】については『難経』では「湿邪」も一部記述しており、「飲食」は長期の偏食の問題を対象にしているとは思えないが、急な過食などの消化不良や激しい空腹などの時の四肢倦怠と独特の脈状などは、労倦の場合の症状にも、湿邪に中てられた時の症状にも、酷似しているので、「湿労食」と表現したい。

◇五邪の性質と主要病候について

- a. 「木」は「風」である。「風」は【「春」の「気」】である。そう言う「風」の性質と役目は、それが「邪」となる時には病候に深く刻印されることになる。

【春気】は「温」であり「和」であり「潤」であり「艶」であり「浮」であり「動」である。

「春風飏蕩」と言われるように「春」は「生命」が一斉に「芽吹く」ときである。

また、体の五行の「木」の臓腑・経絡などに親和性を持っている。

- b. 「火」は【「夏」の「気」】である。そして、「暑」と「熱」または「暑熱」が「夏気」に他ならない。そのような「火気」の性格と働きが「邪」として身体に病候を現わす時には「熱」となる。

「火」「暑」とされている【夏気】の性質と役割は、「熱」の

- c. 「土」は【「長夏・また季夏とも言う」の「気」】である。

- d. 「金」は【「秋」の「気」】である。

- e. 「水」は【「冬」の「気」】である。